

あとがき

つい最近まで、パーキンソン病の認知機能障害といえば、遂行機能障害などの前頭葉機能障害ということになっていた。しかし今では、社会的認知、視覚性認知、うつとアパシーなどの感情的認知、精神緩慢などのさまざまな内容が加わり、その中では扁桃体や中脳辺縁皮質経路との関連が問題になる症状が多い。さらに、実は運動症状より先にこれらの症状が存在する、という考えもあって、MIBGなどの画像診断法の進歩とともに、パーキンソン病における認知機能障害の研究の進展、診療応用からは目を離せない。本号特集を企画した狙いはそこにあり、ユニークで重厚な論文が並び、ここで述べるまでもなく、読者は自然に読んでしまうであろう。

本号に掲載されている論文で目を奪われたもう1つの論文が、柴田先生の片頭痛前兆の神経生理学の総説である。私が今とても興味を持っている内容ということもあり、そう見えるのかも知れないが、かなりの力作である。片頭痛は変わった病気で、紀元前アリストテレスも注目していたらしいが、最近ではオリバー・サックス著の *Migraine* (1992) が有名である。サックス自身片頭痛持ちで、以前 *Neurology* 誌の Letter 欄で神経内科医の片頭痛についての論文に彼がコメントしていた。対象になった論文はスペインからのもので、今年6月のストックホルムでの国際頭痛学会で続報のポスター発表があり、やはり神経内科医は片頭痛持ちが多いそうである。前置きが長くなったが、柴田論文を読めば片頭痛前兆を総合的に理解できる。前兆は治療しなくてもよいという意見も多いが、私たちのデータは違う。頭痛に至る前のまぶしさを偏光レンズで防げば、かなりの予防効果がみられるのだ (Koyama ら, *Behaviour Neurology* in press)。前兆を楽しんでいる人もおり、米国では毎年、片頭痛視覚前兆の品評会が開催される、という話も聞いたことがある。

頭痛に関連して思い出したが、パーキンソン病の認知障害の特集に「痛み」を入れるのを忘れてしまった。パーキンソン病患者の約半数の人々が、頭痛以外の身体の「痛み」に苦しんでいる。これも忘れてはならない症状の1つである。

最後に読者の皆さん、多数の論文をご投稿いただき、ありがとうございます。雑誌統合以来、投稿数が増えました。査読に少し時間がかかっているかもしれませんが、編集委員ももう少しで現状に対応できるようになると思います。自信作をたくさんお待ちしております。

(河村 満)

BRAIN and NERVE

(第59巻 第9号)

2007年9月1日(毎月1回1日発行)

定価 2,730 円(本体 2,600 円+税 5% (配送料実費))

(2007年、年々めり予約購読料 34,860 円(配送料弊社負担))

E-mail: bn@igaku-shoin.co.jp

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/bn>

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5701

(高瀬・山内・山崎)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 (株)アイワード (011) 241-9341

広告申込所 (株)丹水社 (03) 3561-1323

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2007, Printed in Japan.
- 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。
- JCLS (株)日本著作権管理システム委託出版物
本誌の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。

編集顧問

生田 房 弘
臺 弘
大友 英 一
金澤 一郎
近藤 喜代太郎
酒田 英 夫
佐野 圭 司
島津 浩
杉田 秀 夫
高倉 公 朋
塚田 裕 三
中里 洋 一
彦坂 興 秀
平山 恵 造
藤澤 浩四郎
真柳 佳 昭
萬年 甫
水野 美 邦
柳澤 信 夫

編集委員

石塚 典 生
糸山 泰 人
岩田 誠
内山 真一郎
梶 龍 兒
川島 隆 太
河村 満
高坂 新一
作田 学
辻 省 次
寺本 明
中込 忠 好
中野 今 治
水澤 英 洋
(五十音順)